

2021年10月26日

DENSO KOBELCO SARD GR Supra 第6戦オートポリス、 トラブル抱えながらも執念の5位

SUPER GT 第6戦オートポリスレポート



2021 SUPER GT 第6戦「AUTOPOLIS GT 300km RACE」(10/23-24) オートポリス(1周4.674km)

10月24日(日)、2019年以来の九州ラウンド開催となるSUPER GT第6戦「AUTOPOLIS GT 300km RACE」の決勝が行われ、8番グリッドから不退転の覚悟で勝利を目指していったDENSO KOBELCO SARD GR Supraは、スタート担当のヘイキがオープニングラップに2台をかわして6位に順位を上げ、7周目には5位、18周目には4位に浮上。20周目にセーフティカーが導入され24周目にリスタートと同時に真っ先にピットインと勝負を仕掛ける。素早いピットワークで中山を送り出すと29周目には3位、30周目には2位に浮上する快進撃を見せた。だがヘイキのドライブ中からマシンにトラブルを抱えており、思うようにペースが上げられず。終盤に後続にかわされる悔しい展開となったが最後まで粘りを見せ執念の5位フィニッシュを果たした。手負いのクルマをヘイキと中山の巧みな技と攻めのピットワークでつないだ価値ある戦い振りを見せ、DENSO KOBELCO SARD GR Supraは、残り2戦での逆転へ僅かな望みをつなぐレースとなった。

ドライバーポイントは6点を獲得しランキング13位(計26点)、チームポイントは9点を獲得しランキング10位(計44点)。次戦は、11月6日(土)・7日(日)にツインリンクもてぎで第7戦として開催される。

■事前情報

いよいよシリーズも残り3戦となり、これから最終戦まではタイトルを懸けた緊張感の中で、より激しく厳しい戦いに突入する。第6戦は、2019年以来のオートポリスを舞台とした九州ラウンドとなる「AUTOPOLIS GT 300km RACE」。10月23日(土)午前に公式練習、午後にノックアウト方式(Q1、Q2)の公式予選で、24日(日)決勝は13時30分スタート、300km(65周:約2時間)で争われ、ドライバー交代を伴うピットストップは1回が義務付け。サクセスウェイトは、現獲得ポイントの倍となる40kgを搭載する。オートポリスでの重量増によるタイムの落ち込みは、40kgだと約0.4~0.5秒と予想される。



この第6戦は引き続きピットパドック完全隔離など徹底した感染予防対策を講じながらの開催。阿蘇外輪山の北方に位置する当地は標高900m、高低差52mのマウンテンコースで、コース幅は狭く前半ダイナミックかつ後半テクニカルなレイアウト。オーバーテイクポイントは限られており、特にセクター3では遅い車両に詰まるとタイムロスを喫しやすい。ポイント2倍計算のサクセスウェイト重量はこの第6戦までであるため、ここで勝利しても第7戦はウェイトがポイントとイコール重量となり軽くなるため、ここまで辛酸をなめてきたチームにとっては最後の浮上するチャンスでもある。タイトル争いに生き残るためには勝利は必須条件。前回2019年に当地で勝利したサードは優勝候補の一角であるが、勝利を逃せばタイトルの望みが僅かになるため、伸るか反るかの一番勝負となる正念場。ヒリヒリするような緊迫した戦いが予想されるが、脇阪寿一監督のもとチーム一丸に、不退転の覚悟で勝利を目指していった。

■公式練習走行

23日（土）9時15分から開始された公式練習走行は、風が強く寒いながらも澄み渡った青空が広がる快晴に。気温10度/路面温度16度のコンディションの中、95分間の混走セッションが開始された。まずはヘイキがタイヤとクルマの評価のため、ソフト側ドライタイヤを装着してコースイン。なかなかグリップが出ない路面コンディションであり、FCYキャリブレーションを挟みながらセットの微調整を施すプログラム。キャリブレーションと2回の赤旗中断後に、ハード側タイヤを装着。20周目に1分33秒993のその時点で4番手タイムをマークした。22周目からは中山がドライブして、ヘイキが装着したソフト側およびハード側タイヤのリピー評価を行った。混走セッションはヘイキのマークした1分33秒993のタイムで5番手となった。

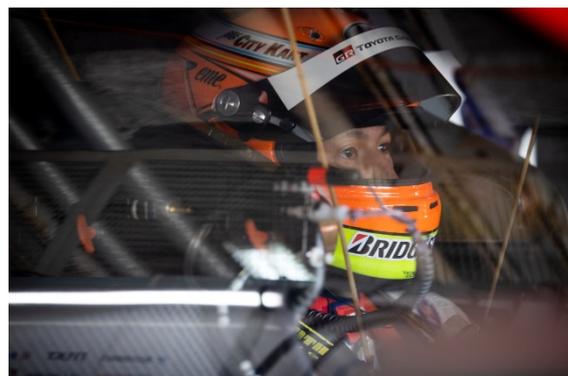


10分間のGT500単独セッションでは、気温12度/路面温度18度に上昇。中山がハード側タイヤでアタックシミュレーションを実施し、4周目に1分32秒577の5番手タイムをマーク。公式練習走行ではトータル40週の走行となった。その後のFCYテスト走行ではヘイキがユーズドのソフト側タイヤを装着して11周ほど走行。公式練習走行でのベストタイムの出方やロングランの様子から午後の予選へ向けてのタイヤ選択が非常に難しい公式練習走行の結果となった。

■公式予選

■Q1：中山が気を吐く走りでも5番手タイム

23日（土）Q1開始時点は、気温14度/路面温度24度で若干日差しが暖かさも感じられるコンディション。午前に行われた公式練習が遅れたため、予定より15分遅れて開始。残り7分ほどでコースインしたファーストアタッカーの中山。午前中の走行フィーリングとタイヤの状況からソフト側タイヤを選択した。短い周回でタイヤピークを引き出すべく、しっかりとウォームアップしながら周回を重ね、3周目に一発で決めるべくアタックを開始した。セクター1では思うようなラインが若干取れずとも全体3番目の自己ベスト。セクター2もほぼトップに匹敵するタイムを刻み、セクター3タイムは5番手であった。次の周もアタックを続けようとセク



ター1を100分の7秒ほど削ってきたが、次のセクター2でグリップが落ち始めたためアタックを続けずに決勝へのタイヤ温存のためピットに戻る選択。中山が気を吐く走りでもQ1は結果5番手となる1分32秒434をマークしてQ2進出を決めた。

■Q2：ヘイキがタイムを伸ばせず8番グリッドに

Q2開始時点では気温13度/路面温度26度と気温が下がり始めるコンディション。開始から残り7分ほどでコースインしたヘイキ。中山と同じくソフト側タイヤを装着して3周目アタックのターゲットでしっかりとタイヤに熱を入れていく。予定通り3周目にアタックに入ったセクター1で、Q1からの路面コンディション変化の影響からか、中山のタイムからコンマ1秒ほど遅れる。セクター2でもタイムが伸びず。最後のセクター3でもうまくドライブできていない様子。思ったようなリズムでの走りが出来ず、ヘイキは1分33秒078の8位となった。明日の決勝は気持ちを切り替え、データ解析をいつもとは別の角度から検証して、4列目8番グリッドからの追い上げを目指すこととなった。



■決勝

■ウォームアップ走行

24日（日）12時10分から開始されたスタート前20分間のウォームアップ走行は、気温12度/路面温度20度で冷たい風が強く吹き、やや曇りがちなながらも時折日差しのあるコンディション。スタート担当のハイキが走り込んだソフト側タイヤを装着してフィーリングを確認。9周目からは中山が決勝セットを確認。ウォームアップはトータル12周を走行。1分36秒621の6番手タイムとなった。

■決勝レース

第1ステント：ハイキが攻めの走りで4ポジションアップ

24日（日）時折日差しが差すも冷たい風のある中、13時30分決勝スタート時点は、気温13度/路面温度21度と上昇が見られず肌寒いコンディション。フォーメーションラップ2周の後、予定通りにスタートが切られ、スタート担当のハイキが8番グリッドから抜群のスタートダッシュを決める。1コーナーで17号車と37号車の2台を一気にかわして6位に順位を上げ、7周目には5位に。タイヤの状況も良く、たまに300車両を抜く際にタイヤカスを拾ってペースが鈍ることはあってもすぐに回復して前の獲物を狩るかの様に攻めていった。10周目に300車両のアクシデントでフルコースイエロー（FCY）からセーフティカー（SC）導入と波乱の様相。解除後18周目には500車両のトラブル車両もあり、攻めの走りでステント終盤には4位に浮上した。20周目に再びSCが導入され、22周を終えるとピットウィンドウがオープンとなりドライバー交代が可能となるため、各陣営は慌ただしくピットイン準備を始めた。そして、24周目にリスタートと同時に真っ先にピットインし、上位3台に対してアンダーカットで前に出るべく勝負を仕掛けていった。



第2ステント：中山が手負いのマシンで粘りの走り

素早いピットワークで中山を送り出すと29周目には3位に上がりアンダーカットの戦術を成功させ、30周目には2位に浮上する快進撃を見せた。その後、ランキングリーダーの1号車とドッグファイトを展開。だが実はハイキのドライブ中からマシンにトラブルを抱えており、タイヤには問題はなかったが思うようにペースが上げられず。特に立ち上がりや300車両を抜く際に本来の加速が得られない手負いの状況。ディフェンスに終始する苦しいながらも粘りの走行を続ける中山。観客も釘付けとなった一進一退の攻防で、1号車を押さえ切ったのも束の間に次々と伏兵が現れる。終盤に38号車、23号車、3号車にかわされる悔しい展開となったが最後まで粘りを見せ執念の5位フィニッシュを果たした。マシントラブル発生がなければ表彰台を獲得できたであろう残念な結果であったが、手負いのクルマをハイキと中山の巧みな技と攻めのピットワークでつないだ価値ある戦い振りを見せたDENSO KOBELCO SARD GR Supraは、残り2戦での逆転へ僅かな望みをつなぐレースとなった。



ドライバーポイントは6点を獲得しランキング13位（計26点）、チームポイントは9点を獲得しランキング10位（計44点）。次戦は11月6日（土）・7日（日）に「ツインリンクもてぎ」で第7戦として開催される。



■ハイキ・コバライネン

「予選Q2ではリズムに乗れず期待に応えられずにチームのみんなに申し訳なかった。決勝ではタイヤも良くクルマのバランスも良い仕上がりで、スタートから攻めていけた。ただ最初のSCの頃からクルマにトラブルが発生してしまい、立ち上がりなどで厳しいドライビングを強いられた。素早いピットワークとユウイチサンの上手い走りでも2位に上がられて強さを見せたと思う。ポイントを得られて本当に良かった。チャンピオンシップは厳しくなったけど可能性は残ったので、残り2戦で期待に応えられるような結果を残していきたい」



■中山 雄一

「自分のステントでは既にトラブルが発生していました。それでもセットアップ面ではアグレッシブに攻めることができるバランスで、なんとか頑張って後続を抑えて走っていました。最後の10周はタイヤの状況も悪くなり、順位を落としてしまいました。最高のピットワークとピットタイミングで表彰台のチャンスがありましたので、とても残念です。残り2戦は良いパフォーマンスを見せて結果に結びつけたいです。引き続きご声援よろしくお願いたします」



■監督 脇阪 寿一

「結果は5位でした。ハイキがドライブ中、最初のSCの時からトラブルを抱え、かなりタイムを失いました。本来の力を発揮できない中、ハイキも頑張りましたし、ピット作業もタイミングも良く、特に雄一は並み居る敵と戦い、2位まで浮上。終盤に抜かれましたが、ポイントリーダーの1号車を前に出す事はありませんでした。TVにいっぱい映ったし、非常に頑張ったと思います。褒めてやってください。大量ポイントのチャンスがあっただけに悔しいですが、チームも後半戦に対して成長を感じます。この悔しさは2週間後、次のもてぎ戦で晴らします。熱い応援をありがとうございました！」

■Qualifying Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time	WH
1	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	笹原 右京／大湯 都史樹	1'31.770	24
2	14	ENEOS X PRIME GR Supra	大嶋 和也／山下 健太	1'31.777	70
3	64	Modulo NSX-GT	伊沢 拓也／大津 弘樹	1'32.128	10
8	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	H.コバライネン／中山 雄一	1'33.078	40

天候：晴れ、コース：ドライ

■Race Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time/Diff	Laps
1	8	ARTA NSX-GT	野尻 智紀／福住 仁嶺	2:04'50.793	65
2	38	ZENT CERUMO GR Supra	立川 祐路／石浦 宏明	+28.548	65
3	23	MOTUL AUTECH GT-R	松田 次生／R.クイントレツリ	+33.469	65
5	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	H.コバライネン／中山 雄一	+43.636	65

天候：晴れ、コース：ドライ、4.674km×65Laps

Drivers Ranking

Pos.	No.	Driver	Total
1	1	山本	60
2	1	牧野	57
3	17	塚越／バゲット	44
13	39	コバライネン／中山	26

Point standings after Rd.6

Team Ranking

Pos.	No.	Team	Total
1	1	TEAM KUNIMITSU	77
2	17	Astemo REAL RACING	60
3	36	TGR TEAM au TOM'S	57
10	39	TGR TEAM SARD	44

Point standings after Rd.6

Partners

TOYOTA

Owltech

TOYOTA
FINANCIAL SERVICES

NEW
Co.,Ltd

hp

MZ
MECHANIX WEAR

Kobelco Steelers
KOBELCO STEEL RUGBY CLUB

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

TENNECO

豊田通商

小松開発工業

salomon
THE SHOE

**MAKE
WINNER**



DENSO

豊田自動織機

FUJIMAKI
GROUP

Jms

SUUNTO

GruppeM
Racing Inc.

KOBELCO

JTEKT

INOS

中京化成工業

ATOMIC

UNIMAT LIFE

Racing Development
TRD

豊田合成

HAYASHI
TELEMPU

Mizuno

KARL STORZ NDTec

admic

BRIDGESTONE

進和

ADVIOS

ENKEI

ALTAIR

MOTUL

情報参照先



SARD Facebook



SARD Twitter



SARD Instagram



SARD YouTube

SUPER GT

: <http://www.sard.co.jp>

: <https://www.facebook.com/SARD.Corporation>

: https://twitter.com/SARD_Racing

: https://www.instagram.com/team_sard/

: <https://www.youtube.com/channel/UCb5NIgwvcB7MtooRFaF5FVA>

: <http://supergt.net/jp/>

e-mail: media@sard.co.jp

SARD

株式会社 サード

〒473-0914 愛知県豊田市若林東町上外根50

TEL. 0565-53-1166 FAX. 0565-52-5482

www.sard.co.jp